

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200248		
法人名	有限会社 ハート		
事業所名	グループホーム 安里		
所在地	佐賀県唐津市佐志1156番地34		
自己評価作成日	平成25年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年2月20日	外部評価確定日	平成26年3月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

唐津湾を望む高台に建つ木造平屋建ての1ユニットのホームである。リビングから、唐津城を初め唐津市内や虹ノ松原が一望でき、広い空と海は入居者様や来訪者様の目を楽しませている。リビングは広く 明るく、空に続いて見えるように空をモチーフにした壁紙の天井になっている。ホーム内は不快な臭いがしないように 消毒や換気に気をつけている。運営は、代表者が認知症介護指導者及び認知症ケア専門士という事もあり、ご利用者様中心で職員と共に入居者様を主体としたケアに取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念の他に独自に創った「安里のルール」は、職員が高齢者疑似体験をし、そこから生まれたものである。実際に車椅子に長時間座ったままの状態や相手に話が届かなかった場合の気持ちなどを経験して、改めて気付いたことが日々のケアに活かされている。事業所には胃ろうでの栄養管理、バルーンカテーテル留置中やインスリン実施中の入居者もいるが、医師と相談しながら経口摂取にも取り組むなど、他の事業所にはないケースも多い。しかし、職員がお互いを信頼し助け合っていることで、毎日笑顔が絶えないチームワークが出来あがっている。また、徐々に身体的に機能も低下していく入居者に対し、出来ることを考え、無理強いすることなく支援している。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	迷った時は見れるように玄関、職員トイレに掲示し、朝の申し送りで唱和している。 各自のネームプレート裏にも付けている。	理念は法人内で同じものを掲げている。しかし、事業所が目指すサービスを端的に示すものとして「安里のルール」という4つの項目を独自に定めている。常に立ち戻る原点として目に付く場所に掲示してあり、職員間での共有はもとより実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をきっかけに地域の文化祭に作品を展示したり、神社のお祭りに参加、あるいは地域の獅子舞等に来て頂いている。 福祉施設の夏祭りには花火大会、運動会に参加して楽しんでいる。	立地環境により周囲に民家は少ない。しかし、地域から孤立することのないよう地区の行事等には積極的に参加し交流を図っている。ボランティア等の訪問も増えている。近くのゴミ集積場の清掃など地域の一員として出来ることは自主的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席された地域の方(区長さん、民生委員さん、福祉施設の方、交番、消防署等)に認知症の議題に触れ情報を流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護サービスの内容や行事報告が行われそこでの意見を今後のサービスに生かしている。	運営推進会議は隣接する同法人事業所と合同で開催されている。メンバーの中には近隣の他事業者や会社社長も入っており、民家の少ない場所ならではの構成である。出席率は良く、家族の代表も含まれている。意見は双方向に出され、ヒヤリハット事例が資料として残され、いつでも閲覧できるようにしたことはこの会議からの提案である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より気になる事は窓口に出向いたり、電話をしたりして相談している。 また、空きができればパンフレットを市町村に持参して、相談に乗って頂いている。 月末に空き状況の調査されており、報告をしている。	市町村担当者には相談事もしやすく、実直に対応してもらえる関係が出来ている。最近では原子力発電所が近郊にある事業所として、避難対策等のマニュアルについてアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	～身体拘束排除宣言～の内容を書いた紙を掲示して身体拘束ゼロを目指して実践している。	全ての職員は身体拘束の内容とその弊害について理解しており、研修で得た知識も速やかに周知されている。玄関に施錠はなく、センサーの設置はあるもののオフ状態であり、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に出向いて学ぶ機会をも持ち、伝達講習を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望が出たら、職員会議に出して改善するように努め運営に反映させている。	家族の来所は事業所にとっても様々な意見が聞ける絶好の機会と捉えている。日頃からコミュニケーションを図り信頼関係を築いてはいるが、更に気軽に話してもらえるよう努めている。来所時に撮る入居者との写真は好評である。また、来所が少ない家族には毎月の事業所便りに近況を添えたり、電話での説明を行うなど配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に出して話し合い、改善するように努め運営に反映させている。	月1回の職員会議には非番者も参加し活発な意見が出されている。管理者は事前に周知内容等をまとめ、会議が有意義に要領よくはかどるよう努めている。入居者ごとのケアのあり方については、現場の職員の意見を十分に聞き活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回3月頃個人面談をして、悩み、相談希望を聞き、その個人を知るようにしている。又、顧問税理士、労務士に相談しながら働きやすいように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修をできる限り、個人のレベルに合わせ、平等に受けることができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津市のグループホームの集まりで、月に1回勉強会があり、参加するようにし ホームに持ち帰り伝達講習をしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの意向を聞き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 (同意して頂けたらサインをもらうようにしている。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの意向を聞き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 長期来れないところは郵送して理解を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の意向を聞き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 (同意して頂けたらサインをもらうようにしている。)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に挙げていて、日頃から上目線ではなく共に過ごし支え合うように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えられた時には、お茶を出し 本人さんとの時間をゆっくりと過ごして頂くように努めている。 又、本人さんの近状報告をし 日頃よりコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞きながら外出、ドライブ、自宅への帰省などを支援している。 馴染みの人が面会に来られた時は、お茶・おやつを出したりして ゆっくり寛げるようにしている。	入居の際に家族や本人からこれまでのことを聞き取り把握している。身体的に低下傾向にある入居者も多いが、車椅子車両の利用や電話を掛ける等、出来ることを工夫しながら関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを置き、利用者様同士が話しやすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに行ったり、電話をしたり近くにお寄りの際は顔を出すようにと話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人・御家族様に介護に対する意向を聞き、できる限り本人本位でいられるようにしている。	職員全員が入居者一人ひとりの思いに関心をはらっている。それは日頃の職員の何気ないしぐさの中に見て取れる。ベッドにすることが多い入居者には顔を近づけ話しかけたり、また、視界に入りやすいように腰を低くし視線を合わせている。言葉が出難い入居者に対してもリラックスした入浴時やゆっくりと話し掛けることで思いを把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、本人様の昔話から聞き出し、又 御家族様から情報を得て、フェイスシートに落とし込んで把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、フェイスシートに落とし込んで把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開き、それぞれの意見を聞き、介護計画を作成している。	計画の見直しは設定期間にこだわらず、変化があれば臨機応変に対応している。家族にも希望を聞き、本人が自分の意見を伝え難い場合でも日々のケアの中で職員が記した伝達ノートを活用しながら本人本位に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの経過記録と熱計表は日勤、夜勤、特別に変化があった時に記載する。 又、スタッフ全員に伝えたいことは、伝達ノートに記載して 情報を共有し実践や介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じ、他の事業所の支援体制が取れるようにしている。 (デイサービス、ショートステイ、訪問介護サービス等)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、慰問のボランティア、警察、消防の方に協力していただき、暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関をかかりつけ医とし、必要に応じて往診が受けられるようにしている。定期受診は、御家族が付き添うが、できない時はスタッフが対応している。	本人や家族の同意のもと協力医をかかりつけ医としている。最近では往診が主で、他の診療科目を受診する場合は事前に家族に伝え職員が付き添っている。受診後の報告は変化があれば当日中と決め、家族との連絡も速やかに行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師がいて日常の健康管理や、適切な受診看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行ったり、電話をしたりして、医師、看護師に情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期がきたら、かかりつけ医、看護師、スタッフで終末期のあり方について話し合い、本人やご家族様の意向を確認し、対応方針を文書で説明し、同意を得ている。	入居時に方針の説明をし、その後の変化に応じてその都度話し合いを重ねるようにしている。これまでに看取りの経験はないが希望があればその用意はある。24時間往診を頼める協力医がいることも大きい。職員の不安を解消していくため徐々に勉強会も実施する考えである。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の勉強会は行っている。救急隊の協力を得て、AEDの講習会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行い(5月、11月)、避難方法が身につくようにしている。	年2回、消防署の立会いで隣接する同法人施設と合同の避難訓練を行っている。毛布を使った避難方法や残室なしを示すドアへの×印等は署員からも評価を得ている。周囲に民家が少ないことから地域住民の参加はないが、近隣の他施設とは協力関係にある。職員全員が消火器や非常通報装置の扱いを承知しており、スプリンクラーも設置されている。また、すぐに掛け付けられる範囲に居住する職員も数名おり、水やオムツ等の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊厳をもって接するように理念や、教訓を見につく場所へ掲示して、本人の気持ちに配慮した言葉かけが さりげなく出来るようにしている。	入居者を年長者として敬意をはらい、恥ずかしいことは決して行わない、無理強いはしない、守るべき情報は漏らさないという意識が全ての職員に浸透している。例えばトイレへの誘導や入浴に関してもプライバシーに配慮しつつ支援している。また、事業所便りに写真を掲載することも事前に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き、できる限り自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での全体の日課はあるが、その中でもどのように過ごしたいか希望を聞き、ケアプランを作成して 個々に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては、訪問美容を利用したり 行きつけのある方は、御家族様 又はスタッフが付き添い その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは本人の希望を聞きながら 又、食べやすい形で提供し、少しでも食べていただけるように支援している。 出来る御利用者様には 寄り添いながら皮むきなどを一緒にしたりしている。	食事は入居者と職員が同じテーブルで同じものを食べながら、味付けや食材のことが話題となり和やかな時間となっている。胃ろうの方も複数いるが、リクライニング車椅子で一緒に集まり、中には医師の指導を受けながら経口摂取を行っている方もいる。食材の買出しには、時には入居者も同行するが、身体機能の低下は否めず、出来ることを職員に見守られながら手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、朝・昼・夜とカルテに記入して、摂取量が少なければ バイタルサインチェックをして医師に報告し指示を仰ぐ。 健康のパロメーターとして早期に異常の発見に努め一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人のレベルに応じた口腔ケアをしている。 自力で出来る方、一部介助が必要な方、全介助が必要な方・・・ (必要に応じた支援)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレにチェック表を作ったり、頻回の見守りをして排泄パターンを知り、そして把握できたらさりげなくトイレに案内している。	バルーンカテーテル留置の方も数名いるが、入居者ごとの排泄リズムを把握し、さりげない誘導で支援している。チェック表により個別の支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の繊維の多い野菜を食材に使用したり、10時・15時はお茶したり、個々に合わせた運動をしたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応曜日は決めているが、お風呂に入りたいという要望があればシャワーを浴びたりしている。又、ゆっくり入りたいという要望があれば時間を急かさないように心がけている。入浴を拒否された方には、タイミングを図り声かけしている。入浴剤で温泉気分が味わえるよう工夫をしている。	入居者が希望すれば曜日や時間帯に関係なく入浴できる。介護器具としてリフトも増設し、入居者や職員共に負担が軽減されている。脱衣場はエアコンとヒーターで温度管理され、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員は見守りながら支援している。また、インスリン実施中の方もおり、入浴後の水分補給にも注意をはらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温には気をつけ、エアコン・ファンヒーター、空気洗浄機、加湿器を使用したり、特別起床時間を設けておらず、本人が起きたい時に起き、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、副作用が理解できるように一人ひとりの最新情報の薬の効能書きを各個人のカルテに閉じて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴を聴取して、希望に沿った楽しみ、役割の支援をしている。 (個別に好きな音楽を聴いたり、キーボードを弾いたり、編み物をしていただいたり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ等、希望に沿った外出支援に努めている。	普段は隣接する同法人の事業所を訪ねたり、周辺を散歩して外の環境に触れることを積極的に支援している。年間行事としてお弁当を持っての外出などが計画されているが、それ以外でも天候や身体状況をみてドライブに出掛けることも多い。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいという希望があれば、3,000円程度は持てるようにして、又 買い物の時などは 施設が立替えてお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃より換気をしたり、快適な温度でいれるようにエアコンを入れたりしている。 又 玄関には花を飾ったり、観葉植物を置いたりして 居心地よく過ごせるようにしている。	この事業所の特徴として居間からの眺めが挙げられる。高台に位置しているため晴れた日は唐津の街並み、浜辺、湾に浮かぶ島までも一望できる。すっきりと片付けられた居間では入居者が思い思いに寛いでいる。冬場は湿度にも気を遣い、加湿器の設置は居室も含め複数個所になっている。脱衣場の奥にはオムツ用のダストロがあり室内に臭いがこもらないよう工夫され、トイレや浴室もきれいに掃除されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには自由に過ごせるソファなど置き、談話したりテレビを観たり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、布団、テレビ、ポータブルトイレなど 使い慣れたものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	少しでも季節を感じてもらえるように居室の入り口にはお雛様等季節ごとの飾りが掛けてある。居室に持ち込む品物に火気以外で制限はない。室内の掃除は職員が行うが、入居者も出来る範囲で手伝っている。居心地よく安心して過ごせるように配慮され、家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにして段差をなくしたり、廊下、お風呂、トイレなどに手すりを付けたり、ナースコールを付けたりして出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。 日付、曜日がわかりやすいように大きい手作りカレンダーを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない